

先生方からの情報

☆保育所・園で：

記入日 R2年10月1日

入学前：園の先生に、クラス、行事などのご本人の様子や工夫など、就学に向けて役立ちそうな情報を記入してもらってください。

☆療育機関などで：

記入日 R2年11月5日

入学前：ご本人の発達障がいの特性や、療育機関で活用している環境調整や支援の工夫など、就学に向けて役立ちそうな情報を記入してもらってください。

☆小学校で：入学から1か月間様子を教えてください。 記入日 R3年4月 日

初めての環境（小学校）の中でご本人がどのように過ごしているか、この時期が一番不安ですよ。困っていることについては早めに対策を考えていくことができるし、楽しく過ごせていることがわかるとご家族は安心ですね。

活用しているいろいろな工夫

就学に向けて、ご本人と担任の先生が学校内で便利だな、と思って活用できそうな、現在活用している工夫・配慮事項があれば、視覚情報も入れてご紹介ください。

いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

☆主治医、心理士、専門スタッフより

検査の種類、実施機関、検査日、
結果（IQ、DQ、強味・弱み）、
検査者・主治医の意見・助言、 など

☆保護者より

読み書き障がいがあるため、小学校で学習をすすめていく際には
デジタル教科書等、読み書きを助けてくれるツールを使用するなどの
サポートがあると助かります。

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 地域小学校

- インターネット … にぎわいネット「障がいがあるお子さんの就学相談情報」

<http://www.ocec.jp/shidouubu/index.cfm/9,0,15.html>

- 電話 … 大阪市教育委員会指導部 インクルーシブ教育推進担当
支援学校等への就学相談 Tel. 06-6327-1017

参考資料：お助けアイデアのいろいろ

心理教育学的に有効であるとされている支援方法のいくつかをご紹介します。
すぐに役立つような方法があればご参考・ご活用ください。

工夫 1：授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ（☆）

カードを机の上におくと先生が順番に来てくれるシステムは便利。

工夫 2：うまく話せない時は、ゆっくり聞きながら本人が話したいことをことばを補足しつつ話すことで会話が成立しやすくなることが多い。

工夫 3：順番を交代を意識するゲームや課題を一緒にして交代を練習する。

発言の順番や「話す人」「聞く人」が視覚的に明示されているとよりわかりやすい。

工夫 4：名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示する、一斉指示の後で個別に確認する等で確実に指示内容を理解しやすくなる。

工夫 5：板書、メモ等で指示内容が呈示されていると再確認しやすい。

工夫 6：ルールや禁止の指示等は、図やマーク、ポスター、短文等で見える形で呈示する方がわかりやすい。

工夫 7：見える形でスケジュールを呈示しておき、変更もそのスケジュール上で見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫 8：あらかじめ、初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく（別室に落ち着きに行く、等）。

工夫 9：社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫 10：イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。

予想通りに進まないことがあるかもしれないことを事前に伝えておくことも1つの方法。

工夫11：落ち着いてから、本人・相手の気持ちや行動をマンガで見える化しながら話し合い状況を共有する。どうすればよいか話し合った後で、周囲・相手と問題解決することを促す。

工夫12：授業の流れが見える化（①～②～③～）したり、授業を区切って構成する（15分×3など）、集中が続きにくい子にはプリント1枚中の課題数を減らす等、課題の量とレベルを工夫するとよい。

工夫13：箇条書きされた連絡事項を連絡帳に記入し、家庭で必ず内容を確認することを連携して取り組み習慣化。チェックリストを使うのも便利。忘れ物をした時にどうするかも決めておくと安心できる。

工夫14：宿題をする時は、すぐにできそうな量、集中して取り組みそうな時間に調整して、好き・得意な内容から取り組む。

工夫15：おとなが聞き取って話す楽しさを維持する。発音が不明瞭なために同級生との会話に困る場合は、ことばの相談に行ってみるのもよい。

工夫16：読みが苦手…文字を拡大する、行間をあける、定規を使い1行ずつ見えるようにする、読めない漢字にルビをふる、句読点に色をつける、文節ごとにスラッシュ（/）を入れる、といった工夫の他に、絵や図や口頭の説明で内容をイメージできるようにすることも効果的。

書きが苦手…量と大きさを調整する。個人に合った量と方法（漢字九九など）で書く練習をするとともに、PCやひらがなゲーム等で文字の構成を楽しみながら学習していくとよいと思われる。

工夫17：計算が苦手…

工夫18：絵を描くのが苦手…

工夫19：姿勢保持しやすい座布団（Qチェアマット）などを使う。

メリハリをつけて練習していく（板書を写す時だけ良い姿勢、等）。

工夫20：仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。

整理整頓された机の写真を見本として示す

配慮1：休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保していただくと安心して1日を過ごすことができる。

配慮2：あらかじめどこでどんな活動をするか見える形で伝えておいていただく。スケジュールの中に落ち着くために休憩スペースに行くことが入っていたり刺激が入りすぎない場所にいるように配慮していただくと有難い。

配慮3：苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請のもとで最初から盛り付けない、残す、という選択肢も設けていただくと安心して給食の時間に臨める。

配慮4：聴覚過敏がある。イヤマフ等のお助けグッズの使用や音量を下げる、運動会でのアナウンス方法を変える等環境を調整することを検討していただけるととても有難い。

配慮5：のりづけはスティックのりで行う、顔が敏感な場合はプールで顔つけなしでOK等、各児の感覚の敏感さに応じて配慮していただけると有難い。

☆発達障がいや教室での支援方法、実践例などの詳しい情報は、にぎわいネット「発達障がい理解のとびら」をご参照ください、

<http://www.ocec.ne.jp/shidoubu/tkbs/>